

令和3年度 学校評価報告書

令和4年3月1日

北海道教育委員会教育長 様

北海道大樹高等学校長

前 田 英 伸

次のとおり令和3年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- (1) 地域と協働した学校づくりを推進する。
 (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、「見通す力」の育成に努める。
 (3) 「共生と協働性」の実現を目指し、「市民性」の醸成と「自己管理能力」の育成に努める。
 (4) 生命を尊ぶ態度、健康・安全・福祉・環境に係る意識を高めさせ、健やかな心身の育成に努める。
 (5) 校内業務の適正化を図ると共に、「育成を目指す資質・能力」がどれだけ身に付いたかを検証し、教育活動の改善に努める。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	○学校評価でも高評価であり、授業改善は、共通理解のもと、学習環境の整備や個に応じた創意・工夫等、着実に進めることができています。 ○3観点ごとのルーブリックの作成等、新しい学びに向けた評価方法の改善を組織的に進めることはできています。 ○地域からの支援により、いち早くICTを活用した教育活動への取組を実現できている。 △探究活動を中心に進めた、主体的に課題解決に取り組む態度と、協働し改善を目指す意識の育成には、結果が実感しにくく、課題を残した。 △必ずしも授業改善が主体性の育成につながっていないという課題が認められる。 △家庭学習習慣が十分ではない。	○授業で取り組んだ印象に残ったことを家庭で話すことが多くなっている。 ○定期考査がなくなっても、成績評価が、あらゆる活動を通したものにより、適切に行われていると思う。 ○ICT機器の活用が進んで、学習活動にプラスになっている。 △授業を理解しているのか、楽しいと思いがながら学んでいるのか伝わってこないことがある。 △授業レベルや内容について、学力差がある中で大変かとは思いますが、なるべく個々の生徒に合わせたものになるよう工夫してほしい。 △家庭学習等、自ら進んで勉強に取り組んでいる様子が見られない。
改善方策	・教員の減員・異動等も踏まえ、組織的に授業におけるユニバーサルデザイン化が維持・深化を進められるよう、研修の強化に努める。 ・地域協働による探究学習と高大連携による教科横断的な学習とが、学びに向かう姿勢を育てることに結びつくよう、シラバス・ルーブリックの検証・改善を行う。 ・主体性の育成について、外部講師招聘も含めた全教職員による研修により、個々の指導力の向上と組織的な指導方法の改善に努める。 ・他校に先駆けて実現されている、タブレット全校1人1台の環境を活かした授業及び学校活動を試行し、そのノウハウを蓄積する。 ・T-Plus（放課後進路活動）の活用等、生徒自身が見通しを持ち学習計画を立てる手立てをさらに強化する。 ・個別最適な学びと協働的な学びの実現に結びつける運用を具体的に実施する。	
生徒指導	○生徒会を中心とした、校則のあり方等を考える取組や選挙管理委員会と連携した取組等、コロナ禍での制限の範囲内で工夫しながら進めることができた。 ○面談期間、長期休業明け生活アンケート、定例サポート委員会の活動等教育相談体制は機能している。 ○コミュニケーションスキルトレーニングが機能し、望ましい人間関係の構築に効果を上げ、いじめ未然防止にも結びついている。	○身だしなみをはじめ、高校の落ち着いた雰囲気十分伝わってくる。 ○いじめ問題もなく、互いを大切にする人間関係を築いていると感じる。 ○コロナ禍でも、学校祭、合唱祭、見学旅行、体育大会等、感染症対策を講じながら、できる範囲の中で積極的に取り組んでいる様子が伝わってきた。 △コロナ禍で難しいところもあるが、ボランティアや地域の活動に、高校生が多く参加

	△小学校との協働等、感染症対策を講じながらできる限り進めたが、実施できなかったボランティア活動も多く、自己有用感を高めさせることに課題があった。	してほしい。
改善方策	・市民性涵養を踏まえ、生徒と共に考える「校則」に取り組む。 ・ICTの活用等感染対策を工夫しながら、資質・能力向上に資する行事の実施を進める。 ・コミュニケーションスキルトレーニングについて、主担当者に業務が偏ることのないよう、全職員で取り組む意識をさらに徹底する。 ・コロナ禍における地域活動の方法を工夫する。	
進路指導	○制限のある中、ICTを活用する等工夫し、関係機関や地域との連携を密に図り、キャリア教育を組織的に進めることができた。 ○多様な生徒個々の課題に対し、個別最適化を進める上で、キャリアパスポート、各種検査・模試等データを活用した進路指導が、新しい課題として求められている。 ○総合的な探究の時間を中心に、各教科多文化共生に基づき、協働社会を形成する一員を意識した取り組みができています。 △2年連続台湾見学旅行が中止となり、校内企画により意識高揚を図ったが、課題は残った。	○学校でのキャリア教育を通して、将来について、年齢に応じて具体的に考えたり、情報収集をしたりしていることが、家庭での会話や相談から伝わってくる。 △進路実現に向けて具体的な目標を立てて学習等をしているかが明確に見えてこない
改善方策	・情報機器を用いた遠隔連携方法の工夫をさらに進め、関係機関の支援を得て、生徒の進路希望に応じた個別最適化をさらに進める。 ・学校全体として、組織的に、蓄積された生徒個々のデータを活用しながら、個別最適な指導に取り組む。 ・多文化共生社会への理解と協働する心、行動力の育成については、引き続き、本校の特色ある教育の柱として、重点を置いて取り組む。	
地域協働による魅力ある学校づくり	○地域の協力を得て、探究学習を具体的に進め、成果を得ることができた。この取組を通して、地域づくりに学校が参画していけるよう、工夫・改善を次年度に向けて進める。 ○室蘭工業大学との高大連携を具体的に進めることができた。 ○学校評価とスクールミッションをベースに、スクールポリシーの策定を進めた。	○生徒たちは毎日の学校生活を楽しく過ごしている様子が伝わってくる。 △広報活動について、学校ホームページやSNSでのデジタル発信が多くなっているのは聞くが、それほど伝わっていないようだ。工夫、改善を願う。 ・入学希望者増に向け、具体的な高校支援策は何か。また、地元産業を活用した特色ある高校づくり（学科や教育課程）を検討していくべきではないか。 ・高校選択のネックとなっているのは部活動の問題。部活動支援の在り方を含め、前向きに検討してほしい。高校に任せるだけではいけないと思う。 ・町と室蘭工業大学の包括協定が結ばれたことから、教育活動の充実を図ってほしい。 ・放課後の生徒の居場所作りについて検討してほしい（教員の働き方改革も含め）。
改善方策	・総合的な探究の時間のシラバスとルーブリックの見直しを行う。 ・地域に向けて発表会を実施する等、より多くの情報を広く発信できるよう工夫する。 ・室蘭工業大学との連携授業を核に、教科横断的な学習を展開する。 ・スクールポリシーの具現化を目指した学校経営を実施し、いっそうの学校魅力化・特色化を図る。	
公表方法	・自己評価、保護者評価、生徒評価を学校運営協議会において、資料に基づき報告した。 ・学校評価報告書、自己評価、保護者評価、生徒評価を学校ホームページにて公開した。	